

なぜ大阪・関西万博会場は夢洲なのか

夢洲万博は今にも沈みそうだが、なぜ会場が軟弱地盤でアクセスも貧弱、リスク大の夢洲が会場になったのか。拙稿「大阪・関西万博の構想と現実」(『カジノ・万博で大阪が壊れる一維新による経済・生活大破壊』あけび書房、2022年)から。

(万博アセス)準備書第1章の事業計画で、次のように書かれています。

開催場所の選定は、大阪府が設置した「2025年万博基本構想検討会議」において、「会場用地100ha以上」と「交通基盤」を条件に、7か所(「彩都東部・万博記念公園」、「服部緑地」、「花博記念公園鶴見緑地」、「舞洲」、「夢洲」、「大泉緑地」、「りんくうタウン」)が検討された。その結果、100ha以上の会場用地や、会場への交通アクセスも確保でき、埋立地を活用することによる自然への負荷が少ないことに加え、既存の大都市機能を活用できることから夢洲が選定された。

じつは方法書に対する意見書でも、夢洲を事業地にした経緯と理由を質問しました。準備書の第8章「住民からの意見とこれに対する事業者の見解」冒頭で、検討会議などでの検討を踏まえ、閣議了解を経て夢洲に決定したと述べています。検討会議の第1回整備等部会議事録などを調べてみました。

2016年7月22日に大阪府庁本館3階で開催された第1回整備等部会の議事録に、こんなやりとりが記載されています。森下委員の発言。「この間の経過もわからず、発言して申し訳ないですけど。前回の全体会議で、夢洲が候補地として出ていたと思うんですけども。それ以外も含めて検討するという段階にまだあるんですか」と問う。

これに対して事務局からの回答。「説明が不十分で申し訳ございません。夢洲は、要は知事の試案ということで、知事の思いということで、この場所で出来ないかと言うことをお示した場所でございます。それ以外の6か所につきましては、昨年、可能性検討の中で一応100ヘクタール以上の用地が確保できる見込みがあるところということで、ご提示をさせていただいた場所です。そこを含めて現在どういうところが可能なのか、6か所プラス試案で示している夢洲、7箇所について現況をご説明をし、次回また現場を見ていただいて、(中略)最終的に進めたいというふうに考えています。」

理解に苦しむ事務局発言だが、要は当時の松井一郎・大阪府知事の「思い」で夢洲が候補地として加わり、その後(はっきりしないが)、夢洲が2025年万博開催の候補地として既成事実化されていきました。なぜ、維新の松井一郎知事(当時)は夢洲をあとから推奨したのか、IRカジノ誘致構想など夢洲開発と関わる政治的な動きと考えられます。2017年8月に「夢洲まちづくり構想」が策定され、夢洲への万博、IRカジノ誘致が連動して推進されます。大阪港「港湾計画」が改訂され、夢洲の都市計画(土地利用計画)も大幅に変更されます。これまでの工業地域ないし準工業地域から商業地域に変更して、「国際観光拠点」形成をめざすこととなります。

(2023年10月11日)